



どうする、人間。

既存産業への影響は？
新規参入チャンスは？
立ち上がる新市場は？
技術の進化は？
各プレイヤーの戦略は？
産業と社会の変化は？
普及への道筋は？

この未来を知らずして、 事業戦略はつukれない。

日経BP未来研究所は、10年にわたり未来予測に関するレポートの発刊・拡充・更新を重ねてまいりました。これらレポート群は、1700社を超える企業に導入され、経営戦略の立案ツールとして活用されています。その多くは、全産業、あるいは特定産業分野という枠組みで構成されており、「産業界や業界からの視点で描かれた未来予測」といえるものです。ただ実際には、急速に産業の垣根は消えつつあります。例えば「自動運転」。グーグルはすでに参入意欲を露わにしており、これに続くように異業種からの参戦が相次ぐでしょう。歴史が語るの、技術の交代はプレイヤーの交代をもたらすということです。さらにいえば、自動運転の普及は、ICT、材料、電子などの基幹産業はもちろん、インフラ、流通、はては行政まで、極めて広い範囲の業界、分野に大きな影響を及ぼします。この全貌は、「いまある」産業分野からの視点では、なかなか捉えることができません。こうした状況を踏まえ、必ず注目しておくべき技術として人工知能と自動運転を取り上げ、新たに『人工知能の未来2016-2020』、『自動運転の未来2016-2020』という二つのレポートにまとめました。

人工知能の未来 2016-2020

新刊
11月発刊



本レポートは、自動運転、次世代製造業、インテリジェントホーム、インテリジェントメディカルケアなど人工知能がつくる13の新市場を予測します。さらに、10の既存産業分野がどのような影響を受けるのかを分析します。

自動運転の未来 2016-2020

新刊
12月発刊



本レポートは、自動車メーカー、部品メーカーのみならず、ICT・エレクトロニクス業界や新興ベンチャーが参入し、急ピッチで開発が進む自動運転の最新動向を分析し、技術進化と未来の市場を予測します。

あらゆる既存産業を翻弄し、かつてない新市場を創造する。

「人工知能(AI:artificial intelligence)」は人工的に作り出した知能であり、実体は高い処理能力を備えたコンピュータです。この概念は以前からありましたが、機械自身が学習する「ディープラーニング」と呼ばれる新たな技術の導入によって、2010年代に入り劇的な進化を遂げつつあります。この前提として、クラウド、そしてビッグデータというものがあることを忘れてはなりません。膨大なデータをもとに学習し日々進化するAIは、人間を超える能力を発揮し、それを利用する新たなビジネスを生み出していきます。もちろん、創造は破壊と対ですから、AIの進化は人間の仕事を奪い、既存ビジネスを破壊していくでしょう。この流れと無関係な産業はありません。あらゆる既存産業がAIに翻弄されることでしょうか。では具体的に、AIはどのような市場を生み、どのようにビジネスを変革していくのか、既存産業はどのような影響を受けるのか。それを明らかにするのが本レポートです。

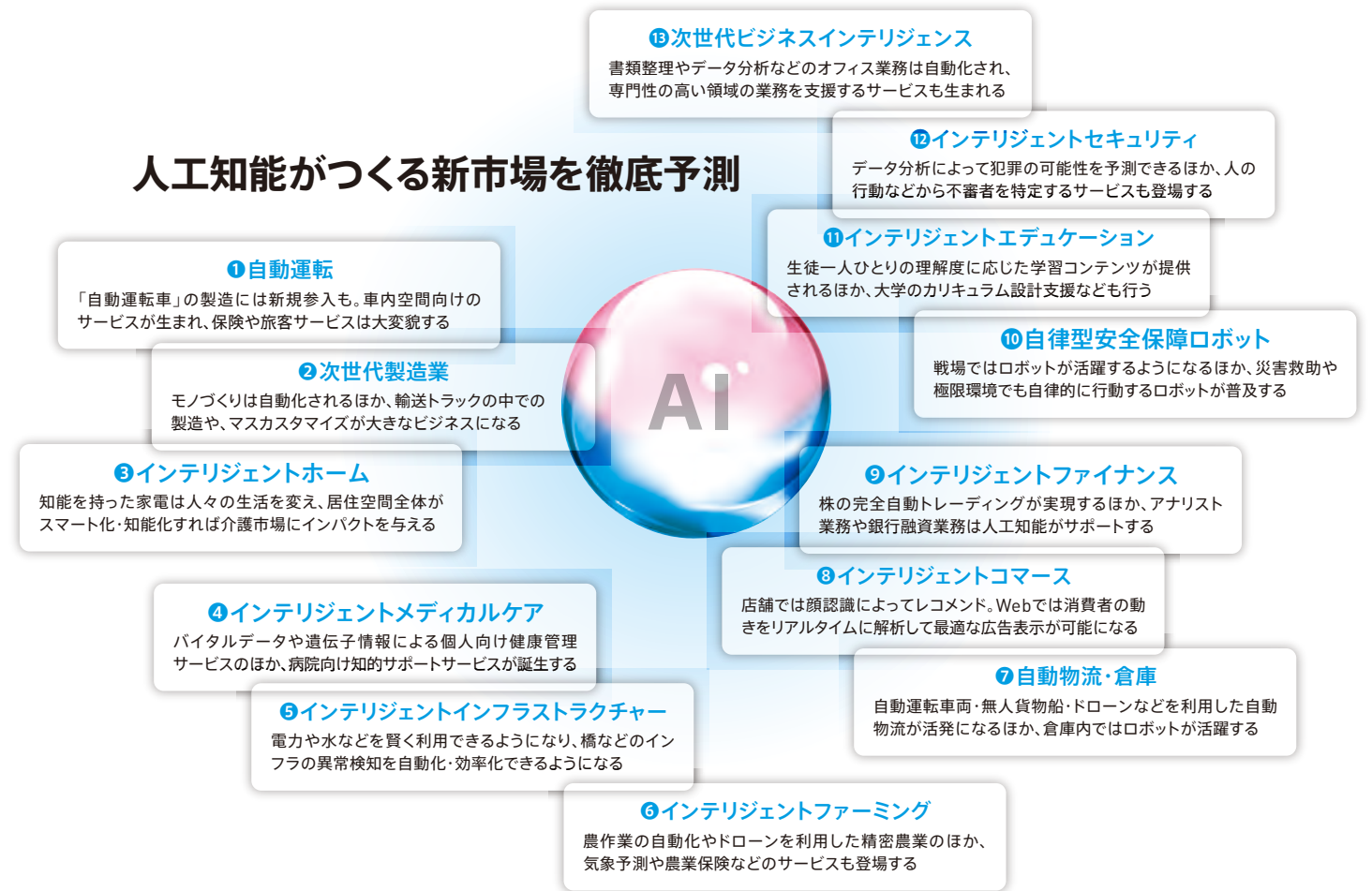


新刊
2015年
11月28日
発行

- 著者: EYアドバイザー
- 2015年11月28日発行
- レポート(A4判、約350ページ、特装本)
- CD-ROM(本体に掲載された図表を収録)
- 本体価格 300,000円+税
- 発行: 日経BP社

人工知能の未来 2016-2020

人工知能がつくる新市場を徹底予測



既存産業にも 大きな影響を 与える

IT・メディア・コンテンツ産業 ▶ バイタルデータによる健康管理システムの開発 ▶ ロボット開発プラットフォーム構築 ▶ 車載インフォティメントのためのコンテンツ制作	自動車・輸送機器産業 ▶ 新規参入者による自動運転車販売 ▶ 無人旅客運送サービスによる車体販売数減少 ▶ 知能化居住空間の一部として事業拡大
素形材・化学産業 ▶ 自動運転車両および内装に使う素形材開発 ▶ ロボットやドローンの電子部品のための素形材開発 ▶ 効率的な新物質の研究開発	医療・美容・健康産業 ▶ バイタルセンサーの情報を利用した各種サービス ▶ 健康管理サービスのプラットフォーム構築 ▶ 介護業者による無人旅客運送サービス
電子・電気・機械産業 ▶ 人間協調型ロボットの開発 ▶ 自動運転車両に使用する電子デバイスの開発 ▶ 知能化居住空間プラットフォームの独占	農業・食品産業 ▶ 3Dフードプリンタの普及による外食店の影響 ▶ 知能化家電による食料品配達サービス展開 ▶ スマート農機開発およびサービス事業への展開
衣料・インテリア・雑貨産業 ▶ 知能化居住空間の情報を利用した外出喚起サービス ▶ 家庭用パーソナルアシスト情報を利用した製品提供 ▶ 店舗やECサイトでインテリジェントコマースを活用	流通・サービス産業 ▶ 自動運転車内でのコンシェルジュサービス展開 ▶ 知能化家電から得られる情報を活用した新ビジネス ▶ 出荷予測サービスの導入で短期間のデリバリー
	インフラ・建築・エネルギー産業 ▶ インフラ協調型自動運転のための交通網整備 ▶ 盗電などの犯罪被害の軽減 ▶ インフラサービスのプラットフォーム構築
	金融・保険・不動産産業 ▶ リスクの高低に応じたフレキシブルな保険料設定 ▶ インフラ点検ロボットのリース提供 ▶ トレーディング、アナリスト、審査業務の件数削減

人工知能の未来 2016-2020 CONTENTS

1 人工知能の俯瞰

1-1. 人工知能の歴史

- 人工知能研究の歴史の概観
- 探索・プランニングに関する動向
- 対話システムに関する動向
- エキスパートシステムに関する動向
- 機械学習・ニューラルネットワークに関する動向
- 日本の動向

1-2. 参入状況とプレイヤー

- 現在の参入状況と2020年の見通し

1-3. ELSI問題への取り組み

- ELSIと人工知能
- ELSIの中心論争テーマ
- ELSIに取り組む機関の例

1-4. 人工知能の特許トレンド

- 人工知能の特許技術に関する全体動向
- 新産業関連の企業の特許出願動向
- 米Google社の動向

2 2020年におけるマーケットへの影響 新規産業の創出

2-1. 自動運転

2-1-1. 対象領域と2020年の状況

2-1-2. 自動運転の製品・サービス

- 自動運転車

2-1-3. 自動運転の派生サービス

- 車載インフォテイメントコンテンツサービス
- テレマティクス保険
- 無人旅客運送サービス
- コンシェルジュサービス

2-2. 次世代製造業

2-2-1. 対象領域と2020年の状況

2-2-2. 次世代製造業の製品・サービス

- スマートファクトリー
- 製品価値からサービス価値への転換
- 人間・ロボット協調型生産システム

2-2-3. 次世代製造業の派生サービス

- マスカスタマイゼーション
- 移動工場によるオンデマンド製造
- 設計・製造熟練者のスキル形式化

2-3. インテリジェントホーム

2-3-1. 対象領域と2020年の状況

2-3-2. インテリジェントホームの製品・サービス

- 知能化家電
- 知能化居住空間
- 家庭用パーソナルアシスタント

2-3-3. インテリジェントホームの派生サービス

- インテリジェントホーム連携生活支援サービス
- 街まるごと知能化
- インテリジェントホーム保険

2-4. インテリジェントメディカルケア

2-4-1. 対象領域と2020年の状況

2-4-2. インテリジェントメディカルケアの製品・サービス

- バイタルデータによる健康管理
- 遺伝子情報による健康管理
- 診断・治療的サポート

2-4-3. 知能化治療室・病室

2-4-4. 研究開発的サポート

2-4-5. インテリジェントメディカルケアの派生サービス

- 健康レコメンドーションサービス
- デジタルホスピタル

2-5. インテリジェントインフラストラクチャー

2-5-1. 対象領域と2020年の状況

2-5-2. インテリジェントインフラストラクチャーの製品・サービス

- インテリジェント・エナジーインフラストラクチャー
- インテリジェント・ウォーターインフラストラクチャー
- インテリジェント・グリーンインフラストラクチャー
- メンテナンス・レジリエンスサービス
- セーフティーサービス

2-5-3. インテリジェントインフラストラクチャーの派生サービス

- メンテナンス熟練者のスキル伝承

2-6. インテリジェントファーム

2-6-1. 対象領域と2020年の状況

2-6-2. インテリジェントファームの製品・サービス

- スマート農機
- ドローンによる精密農業
- 自律型植木工場

2-6-3. インテリジェントファームの派生サービス

- 気象予測サービス
- 農業保険
- ベテラン農家のスキル伝承

2-7. 自動物流・倉庫

2-7-1. 対象領域と2020年の状況

2-7-2. 自動物流・倉庫の製品・サービス

- 自動陸運
- 無人海運
- 無人空運
- 自律型物流ロボット

2-7-3. 自動物流・倉庫の派生サービス

- 出荷予測サービス

2-8. インテリジェントコマース

2-8-1. 対象領域と2020年の状況

2-8-2. インテリジェントコマースの製品・サービス

- 店舗における購買行動解析
- 店舗における購買レコメンドーション
- eコマースにおける購買行動解析

■eコマースにおける購買レコメンドーション

2-9. インテリジェントファイナンス

2-9-1. 対象領域と2020年の状況

2-9-2. インテリジェントファイナンスの製品・サービス

- 完全自動トレーディング
- アナリストエージェントによる投資支援
- 信用診断的サポート
- エージェントによるファイナンシャルプラン支援

2-9-3. インテリジェントファイナンスの派生サービス

- ソーシャルメディアを利用した投資判断支援

2-10. 自律型安全保障ロボット

2-10-1. 対象領域と2020年の状況

2-10-2. 自律型安全保障ロボットの製品・サービス

- 自律型軍事ロボット
- レスキューロボット
- 極限環境ロボット
- テロ発生予測システム
- 災害情報支援システム

2-11. インテリジェントエデュケーション

2-11-1. 対象領域と2020年の状況

2-11-2. インテリジェントエデュケーションの製品・サービス

- パーソナライズド・アダプティブラーニング
- パーソナライズドカリキュラム設計支援
- パーソナライズドキャリア設計支援

2-12. インテリジェントセキュリティ

2-12-1. 対象領域と2020年の状況

2-12-2. インテリジェントセキュリティの製品・サービス

- データ解析による犯罪予測システム
- 自動投稿監視システム

2-12-3. インテリジェントセキュリティの派生サービス

- セキュリティアドバイザーサービス
- 犯罪未然防止サービス

2-13. 次世代ビジネスインテリジェンス

2-13-1. 対象領域と2020年の状況

2-13-2. 次世代ビジネスインテリジェンスの製品・サービス

- フロントオフィス業務意思決定支援システム
- バックオフィス業務支援システム
- 専門業務意思決定支援システム

3 既存産業への影響

3-1. 自動車・輸送機器産業への影響

- 二輪車 ■自動車 ■重機 ■鉄道
- 航空機 ■造船

3-2. 電子・電気・機械産業への影響

- 情報機器 ■精密機器・事務機器 ■衛星
- 産業機械・ロボット

3-3. IT・メディア・コンテンツ産業への影響

- 通信 ■システム構築 ■ソフト開発
- 広告・デザイン ■娯楽 ■報道

3-4. 医療・美容・健康産業への影響

- 薬品 ■介護 ■ヘルスケア機器
- スポーツ ■美容

3-5. 素材・化学産業への影響

- 鋼鉄・金属 ■紙・パルプ ■繊維
- ゴム・プラスチック ■石油・石炭 ■建材

3-6. 衣料・インテリア・雑貨産業への影響

- ファッション ■インテリア・家具
- 日用品・雑貨 ■宝飾品

3-7. 農業・食品産業への影響

- 農林水産業 ■飲料 ■外食産業

3-8. インフラ・建築・エネルギー産業への影響

- 電力 ■ガス ■水道 ■道路 ■土木 ■鉄道

3-9. 流通・サービス産業への影響

- 商社 ■百貨店 ■スーパー・コンビニ

- 宅配便・運輸 ■旅行 ■人材派遣

3-10. 金融・保険・不動産産業への影響

- 銀行・証券・保険 ■クレジットカード
- ファンド ■不動産

4 2020年新規産業創出に向けて 求められる機能・技術

4-1. 自動運転を支える技術

4-2. 次世代製造業を支える技術

4-3. インテリジェントホームを支える技術

4-4. インテリジェントメディカルケアを支える技術

4-5. インテリジェントインフラストラクチャーを支える技術

4-6. インテリジェントファームを支える技術

4-7. 自動物流・倉庫を支える技術

4-8. インテリジェントコマースを支える技術

4-9. インテリジェントファイナンスを支える技術

4-10. 自律型安全保障ロボットを支える技術

4-11. インテリジェントエデュケーションを支える技術

4-12. インテリジェントセキュリティを支える技術

4-13. 次世代ビジネスインテリジェンスを支える技術

5 人工知能に関連する周辺技術

5-1. 量子コンピュータ(ゲート方式)

5-2. 量子コンピュータ(アニーリング方式)

5-3. ニューロモフィックチップ(脳型コンピュータチップ)

5-4. HPC

5-5. GPU

5-6. アフェクティブコンピューティング

5-7. 拡張現実

5-8. ジェスチャー認識

※目次は変更になる場合があります。

人工知能の未来を見通す注目データを多数掲載しています。

(図表データはレポートに付属のCD-ROMに収録していますので、企画書などにご活用いただけます)

■参入プレイヤーと新たな産業生態系



出所: EYアドバイザリー

人工知能によって創られる新規産業では、ものづくり系とサービス系のそれぞれのプレイヤーが協業し、あるいは対立しながら発展し、新しい産業生態系が構築される。

■人工知能を搭載した自動運転車の登場



出所: EYアドバイザリー

人工知能を搭載した自動運転車の登場によって、自動車産業のサービス化は加速し、「車載インフォテイメントコンテンツサービス」「テレマティクス保険」「無人旅客運送サービス」「コンシェルジュサービス」といった派生ビジネスを生み出す。

■自動運転 台頭するものづくり系・サービス系の新興勢力



出所: EYアドバイザリー

GoogleやTesla Motorsなど、ものづくり系・サービス系それぞれの新興勢力が、既存勢力である日米欧の自動車メーカーに攻勢をかける激戦区となる。また、完成車メーカーの周辺に認識系、判断系の関連技術を有する企業・大学の産業生態系が構築されつつある。

■インテリジェントファームが 派生ビジネスを生み出す



出所: EYアドバイザリー

植物工場だけでなく露地栽培までもが、人工知能を駆使したインテリジェントファームリングによって、大きく変化し、「気象予測サービス」「農業保険」「ベテラン農家のスキル形式化」といった派生ビジネスを生み出す。

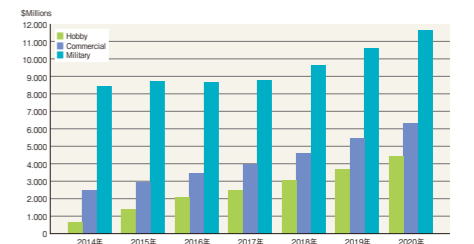
■インテリジェントファーム 2大グローバルプレイヤーの争い



出所: EYアドバイザリー

ものづくり系の2大プレイヤーであるMonsantoとDuPontが、Googleなどサービス系プレイヤーの力を借りながら、主導権争いをはじめています。

■無人航空機システム(UAS: Unmanned Aircraft Systems)の世界市場規模



出所: フロスト&サリバン

個人/商用利用のドローン世界市場は、2015年は44億ドル、2020年には110億ドルまで拡大(2014年時点の予測)

自動運転が産業と社会をこう変える。

世界の自動車メーカー、大手サプライヤーのみならず、IT業界なども巻き込んで開発が進む自動運転技術。これが普及すれば、自動車産業の姿は、根底から変わります。それは、業界にとっては望ましいことではないかもしれません。けれども、誰かが必ずやるでしょう。自動車業界から先導者が現れなければ、他業種から出てくるはず。すでに旗は掲げられました。これから、多くのプレイヤーがそこを目指して猛進を始めるはず。その結果として、自動車産業は、次世代のモビリティ・インフラ産業へと変貌していくことでしょう。その影響は、完成車メーカーや部品メーカーだけにとどまりません。材料や電子部品、エネルギーなどの関連産業はもちろん、ICT、インフラ、金融・保険、物流・運輸、流通・小売、広告・マーケティング、住宅・不動産、警備・セキュリティなど、ありとあらゆる分野に及び、かつそのインパクトは強烈です。本レポートでは、各プレイヤーの開発状況と今後の動き、技術の進化予測、普及シナリオなどを提示し、自動運転が産業や社会をどう変えていくのかを予測します。



新刊
2015年
12月14日
発行

- 著者: EYアドバイザリー、ボストン・コンサルティング・グループ 他
- 2015年12月14日発行
- レポート(A4判、約300ページ、特装本)
- CD-ROM (本体に掲載された図表を収録)
- 本体価格 300,000円+税
- 発行: 日経BP社

自動運転の未来 2016-2020

自動運転の技術進化と未来の姿を予測する。

■世界で進む自動運転開発のロードマップ

自動運転技術の開発競争が、OEMやGoogleなど新規参入企業の間で激化している。2020年が自動運転車の本格的市場形成のターニングポイントになると予測される。



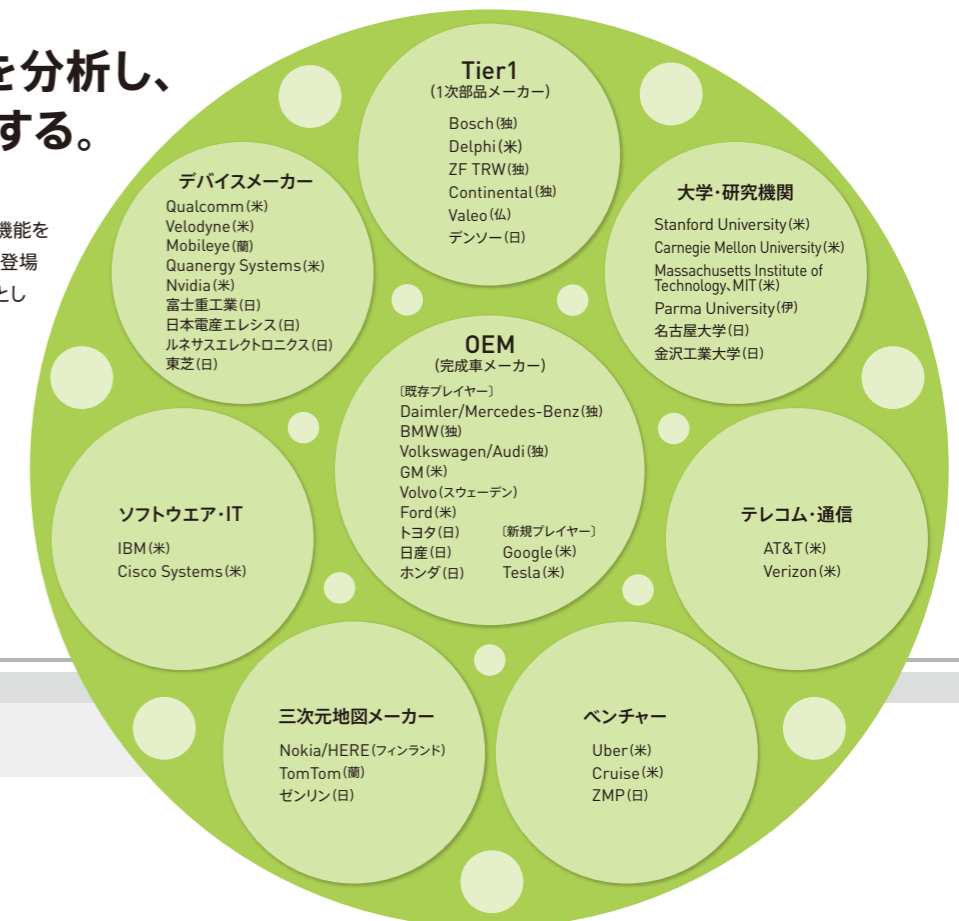
自動運転車の本格的な市場化が開始

出所:OEM各社ホームページ及びニュース記事をもとにEYアドバイザリーが作成

主要プレイヤーの動きを分析し、産業構造の変化を予測する。

■ピラミッド型業界構造が大きく変化

自動運転の「認知」の機能を担う車載センサー、「判断」の機能を担う人工知能など要素技術を手掛ける新規プレイヤーの登場により新たな産業エコシステムが構築され、OEMを頂点とした業界構造は大きく変貌する。



自動運転の未来 2016-2020 CONTENTS

1 いまなぜ自動運転なのか

- 1-1. 実現がみえてきた自動運転車のある未来
- 1-2. 自動運転の各機能と市場投入の時期
- 1-3. 消費者の視点からみる自動運転車の購入理由
- 1-4. 技術進化とコストの推移
- 1-5. 自動運転車の普及への道筋
- 1-6. ADASの普及と自動運転の4段階
- 1-7. 自動運転車実現に向けた論点と課題

2 自動運転の最新動向と未来予測

- 2-1. 自動運転業界が変える業界構造
 - 世界で進む自動運転開発のロードマップ
 - 自動運転で必要になる3要素
- 2-2. 新たな産業エコシステムの構築
 - ピラミッド型産業構造の変化
 - 変わるTier1の役割
- 2-3. 主要プレイヤーの動き
 - 2-3-1. OEM・新規プレイヤーの開発体制・試作車・提携動向・未来の方向性
 - Daimler/Mercedes-Benz (独)
 - BMW (独)
 - Volkswagen/Audi (独)
 - GM (米)
 - Volvo (スウェーデン)
 - Ford (米)
 - トヨタ (日)
 - 日産 (日)
 - ホンダ (日)
 - Google (米)

- Tesla (米)
- 2-3-2. Tier1の製品・開発体制・試作車・提携動向・未来の方向性
 - Bosch (独)
 - Delphi (米)
 - ZF TRW (独)
 - Continental (独)
 - Valeo (仏)
 - デンソー (日)
- 2-3-3. デバイスメーカーの製品・開発体制・提携動向・未来の方向性
 - Qualcomm (米)
 - Velodyne (米)
 - Mobileye (蘭)
 - Quanergy Systems (米)
 - Nvidia (米)
 - 富士重工業 (日)
 - 日本電産エリシス (日)

- ルネサスエレクトロニクス (日)
- 東芝 (日)
- 2-3-4. ソフトウェア・ITの製品/サービス・開発体制・提携動向・未来の方向性
 - IBM (米)
 - Cisco Systems (米)
- 2-3-5. 三次元地図メーカーの製品・開発体制・提携動向・未来の方向性
 - Nokia/HERE (フィンランド)
 - TomTom (蘭)
 - ゼンリン (日)
- 2-3-6. ベンチャーの製品/サービス・開発体制・提携動向・未来の方向性
 - Uber (米)
 - Cruise (米)
 - ZMP (日)



※誌面はイメージです。

- 2-3-7. テレコム・通信の製品/サービス・開発体制・提携動向・未来の方向性
 - AT&T (米)
 - Verizon (米)
- 2-3-8. 大学・研究機関の研究内容・開発体制・提携動向
 - Stanford University (米)
 - Carnegie Mellon University (米)
 - Massachusetts Institute of Technology, MIT (米)
 - Parma University (伊)
 - 名古屋大学 (日)
 - 金沢工業大学 (日)

- 2-4. 各国政府の動向
 - 2-4-1. 米国
 - 管轄機関の役割
 - ロードマップ
 - 政策概要
 - 関連プロジェクト
 - 法規制概要と法整備動向
 - 2-4-2. 欧州
 - 管轄機関の役割
 - ロードマップ
 - 政策概要
 - 関連プロジェクト
 - 法規制概要と法整備動向
 - 2-4-3. ドイツ
 - 管轄機関の役割
 - ロードマップ
 - 政策概要
 - 関連プロジェクト
 - 法規制概要と法整備動向
 - 2-4-4. 日本
 - 管轄機関の役割



※誌面はイメージです。

3 自動運転の実現技術

- 3-1. 自動運転車の基本構成
 - 自動走行の基本原理
 - 3次元地図やGPSも併用
 - 最適な走行経路を決定する
- 3-2. 人工知能
 - 自動運転と人工知能
 - ディープラーニングの今後の発展
 - クルマの「頭脳」に求められるもの
 - 技術(認識系・判断系・操作系)進化の可能性
- 3-3. センサー
 - レーザーレーダ
 - ミリ波レーダ
 - カメラ

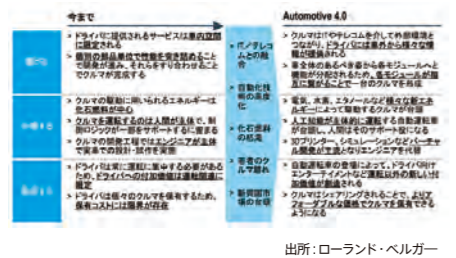
4 自動運転の社会・産業に与える影響と普及への課題

- 3-4. HMI(ヒューマン・マシン・インタフェース)
 - 自動運転車のインタフェースには何が必要か
 - 人と機械の共生に必要な2種類のHMI
 - 機械への信頼を形成する4つの要件
 - 未来のHMI
- 4-1. 自動運転の普及により予想される変化
 - 社会の変化
 - 自動車産業の構造変化
 - 自動車利用形態の変化
 - 周辺産業の変化
 - 既存産業の変化
 - オートモーティブ4.0
- 4-2. 普及への課題
 - 技術的な課題
 - 法的な課題

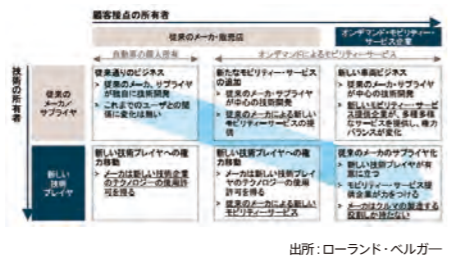
※目次は変更になる場合があります。

自動運転の未来を見通す注目データを多数掲載しています。(図表データはレポートに付属のCD-ROMに収録していますので、企画書などにご活用いただけます)

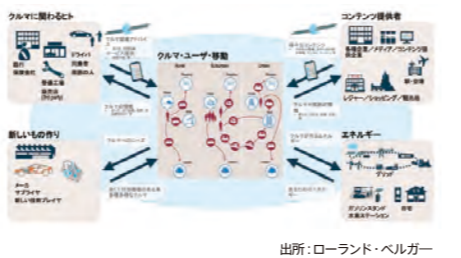
■自動車産業の3つの大変化



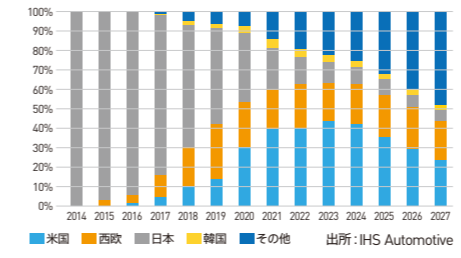
■新規参入チャンスのある業界



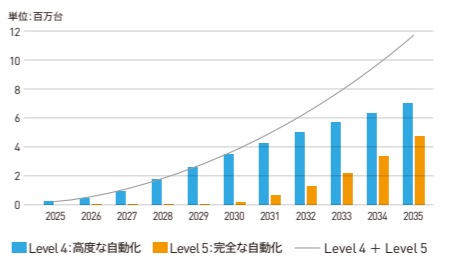
■関連するプレイヤーの増大と多様化



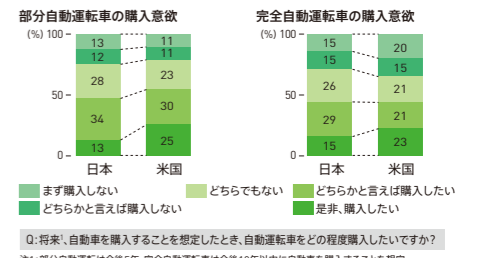
■車車間・路車間通信の世界市場販売シェア予測



■自動運転車の普及予測



■自動運転車の購入意欲(日本/米国)



2030年以降の世界では、繋がる、代替する、創造するの3つのコンセプトを軸に、自動車産業に大きな変革が起こる。

「技術」と「顧客接点」の持ち方が変化し、テクノロジー企業やモビリティ・サービス企業が勢力を拡大する。

関連するプレイヤーが広がり、多様な場面で繋がり・代替し・創造する世界が創り出される。

ETCで先行した日本を欧州や米国が追随するかたちになっている。2020年以降は日本、西欧、米国以外の地域の割合が増えていくと考えられる。

基本的にドライバーは不要な自動運転車が、世界の自動車販売に占める比率が、2035年には10%弱に達する。

出所: ボストン・コンサルティング・グループ
完全自動運転車の購入意欲のある消費者の割合は、日米共に44%。

購入特典

ご購入いただいた皆様には、
『日経ビジネス Digital』
6か月購読をプレゼントします。



日経ビジネス DIGITAL

※『日経ビジネスDigital』のご利用に関しましては、本商品をお申し込みいただいたメールアドレス宛てにご案内いたします。ご利用を希望されるメールアドレスをご記入ください。

日経BP未来研究所

『Mirai engine』【オンライン検索サービス】
をご利用いただけます。

関心をお持ちのキーワードが、どのレポートのどこに記載されているかを検索できます。また、日経BP社の雑誌記事やWebコンテンツから見出し情報をピックアップできます。さらに、日経BP社の記事データベースを基にキーワードのヒット数を時系列で表示する「キーワード・ハイブカーブ」をご利用いただけます。



お申込書 ※ご希望の数量とお届け先をご記入ください。

書名	金額	発行日	商品番号	部数
人工知能の未来 2016-2020 ● 新刊	本体価格 300,000 円+税	2015年11月28日	245700	部
自動運転の未来 2016-2020 ● 新刊	本体価格 300,000 円+税	2015年12月14日	245920	部

お名前	(姓) _____ (名) _____	フリガナ	(セイ) _____ (メイ) _____
※必ず個人名(フルネーム)をご記入下さい。			
ご送付先	<input type="checkbox"/> 会社(上記で記入の住所が会社の場合 <input type="checkbox"/> 印を入れてください。) ※マンション・ビル名・部屋番号様方もお忘れなくご記入ください。		
会社名	ご所属 お役職		
TEL	FAX		
E-mail アドレス	@		

申込によってお知らせいただいたお客様の個人情報につきましては、当セミナーの運営に関わる事務に利用させていただくほか、EYアドバイザリー株式会社、新日本有限責任監査法人、新日本有限責任監査法人グループ、およびEY Japan グループで共有させていただき、今後の発刊書籍、実施予定の説明会、セミナー、勉強会、研究会、および業務内容のご案内をさせていただく目的以外には使用いたしません。



EYアドバイザリー株式会社 総務 辰喜(たつき)

お申し込み先

FAX: 03-3503-2818

メール: eyj_advisory_info@jp.ey.com

問合せ先

EYアドバイザリー株式会社 P&Uチーム 園田 TEL:03-3503-1490(代表)

※ご請求業務については、日経BP社が担当いたします。